

11 住み続けられる
まちづくりを



15 陸の豊かさも
守ろう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



耕作放棄地解消と圃場整備・法人化の重要性

～京丹後市宇川地域を事例として「持続可能な地域社会」を創るために～

2024/12/15(日)
京都から発信する政策研究交流大会
今里ゼミナール

CONTENTS

01 はじめに

02 今里ゼミの活動
宇川地域の概要

03 圃場整備と農業法人化

04 宇川アグリの検証

05 政策提案

06 持続可能な宇川
地域に向けて

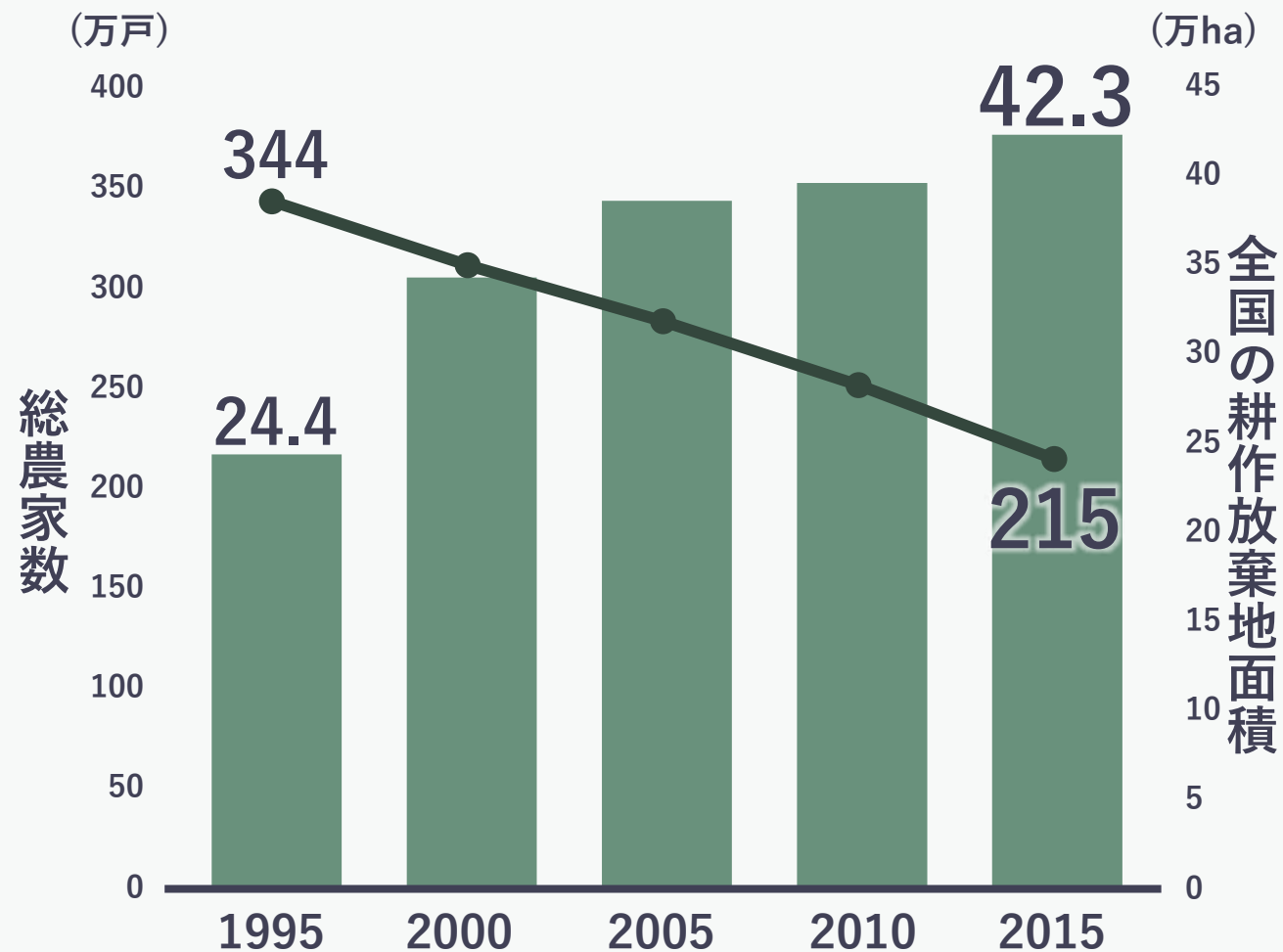
07 おわりに



01

はじめに

日本の農業の現状



農家の高齢化や後継者不足

農家数の減少が深刻化

耕作放棄地が増加

※耕作放棄地とは

以前農地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、
そのうえ今後数年の改題に再び耕作する考えのない土地

耕作放棄地の影響

災害防止

機能の低下

土壌劣化による雨水の貯蓄効果の低下や、農業に関する施設などの管理放棄により、災害リスクが増加する。

生態系の

変化

雑草の繁茂が促進され、農地と仕手の質が低下し、近隣の農地にも危害を及ぼす。また、獣害の拡大に繋がる。

耕作に関する

知識の喪失

農地に対する無関心に繋がり、農家が長年培ってきた農業に関する知識が失われる危険性がある。

(野田ら 2011、板垣 2013)

周辺地域にも影響を及ぼす

耕作放棄地の増加



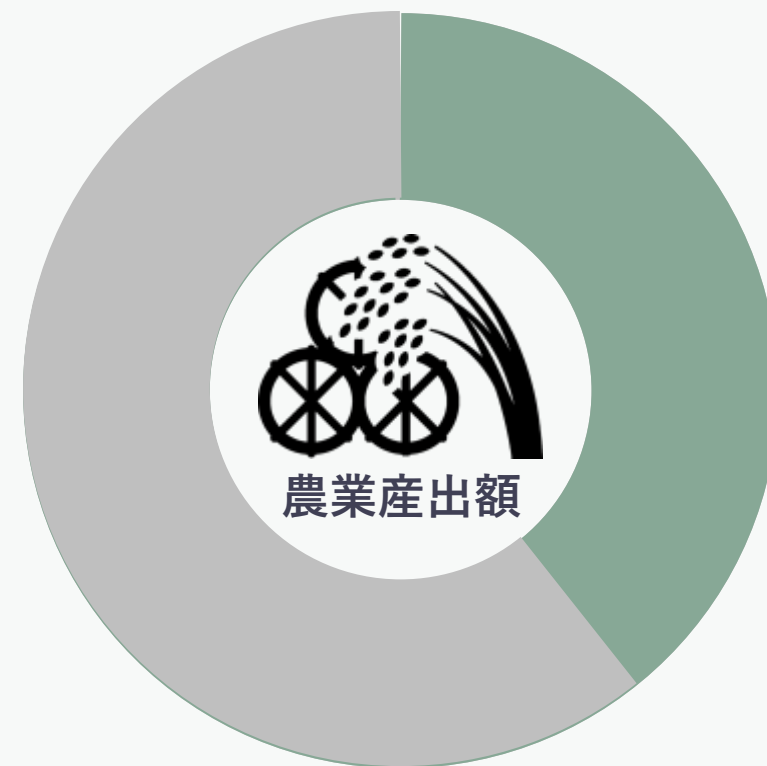
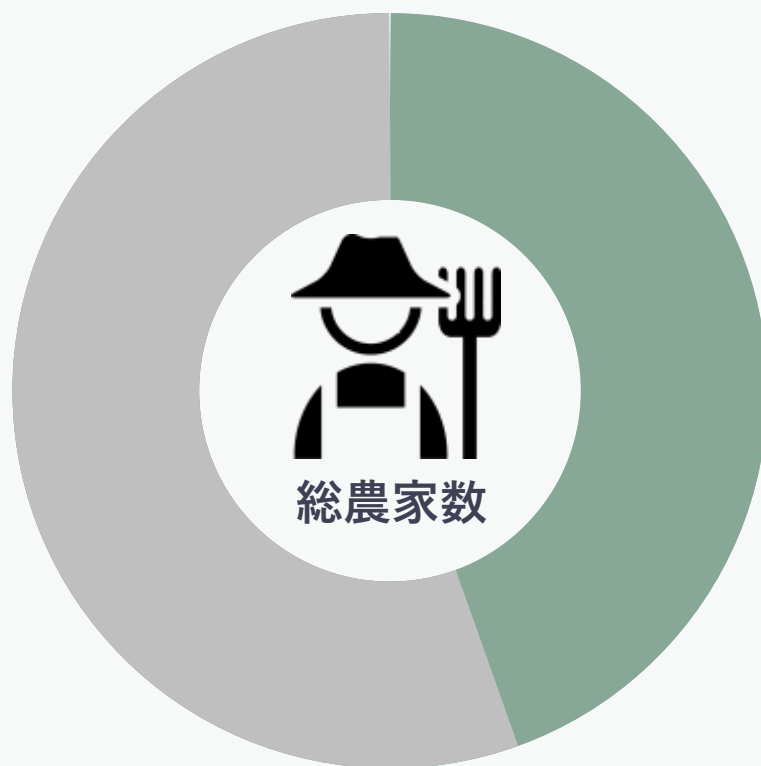
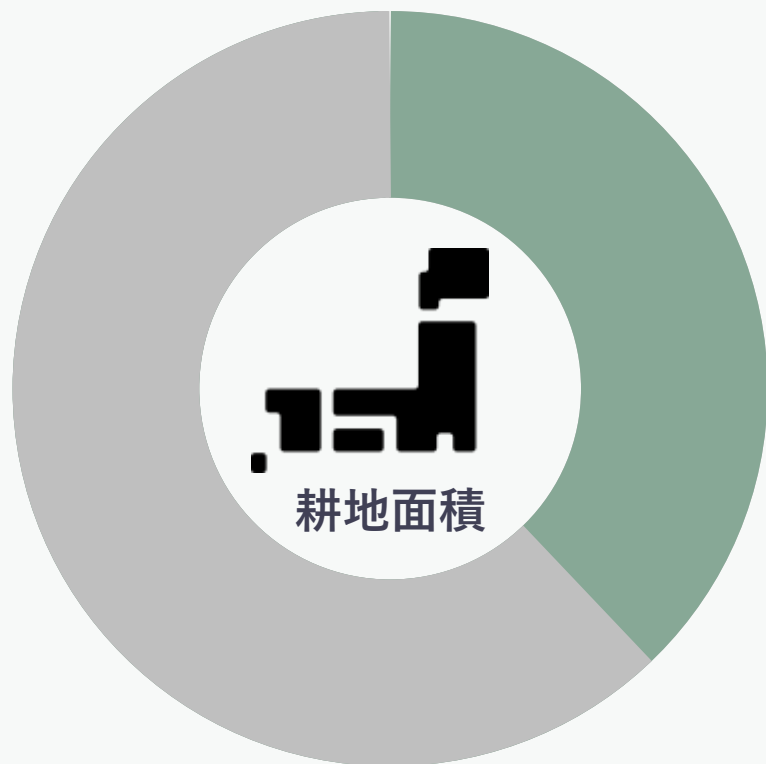
利用できる農地の減少



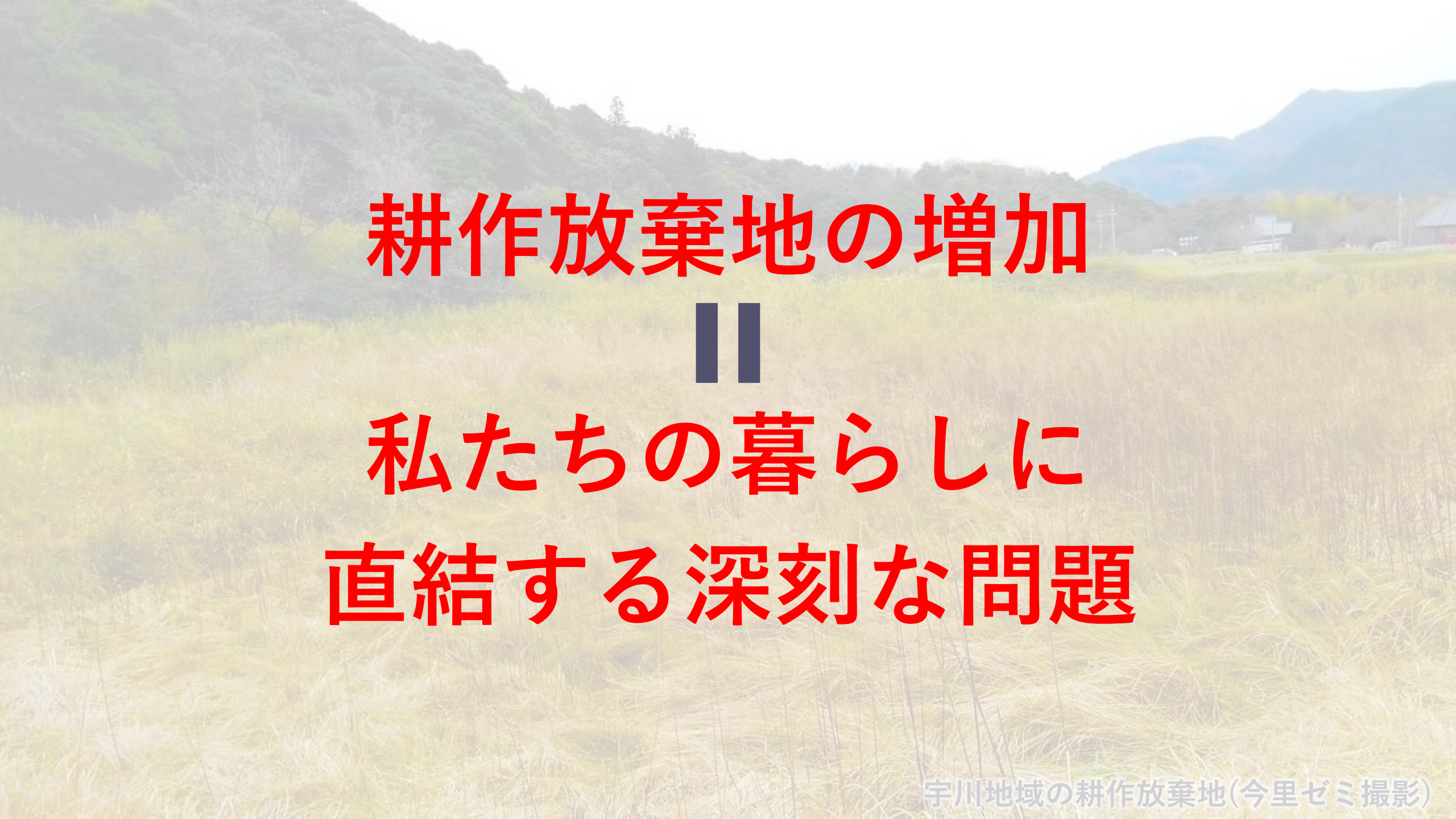
**中山間地域の主産業
である農業の衰退**

中山間地域の役割

以下の分野において**約4割**を占めている



我が国の農業において重要な役割を担う



耕作放棄地の増加
||
私たちの暮らしに
直結する深刻な問題

研究の流れ

耕作放棄地対策として
圃場整備事業と
農業法人化を推奨

圃場整備事業と
農業法人化には
課題がある

圃場整備企業と
農業法人化が
有効であるか検証

課題に焦点を当て、
持続可能な解決策
を提案

02

今里ゼミの活動 宇川地域の概要



今里ゼミの活動

ゼミのテーマ

持続可能な地域の在り方 について自治・協働の 観点から考える

- 3つのプロジェクト活動
- 今里田プロジェクト・・・食を通じた地域の魅力発信
- 自然交流プロジェクト・・・豊かな自然を活かした市民交流
- 情報発信プロジェクト・・・宇川地域の情報発信

- 地域活動
- 10年間にわたる毎月のフィールドワークを実施



梅ジャム製造(今里ゼミ撮影)



フォトコンテストの開催
(今里ゼミ撮影)



山整備(今里ゼミ撮影)



水路掃除(今里ゼミ撮影)



今里田での稲刈りイベント
(今里ゼミ撮影)



地域住民との交流
(今里ゼミ撮影)

宇川地域の概要



京丹後市丹後町 **宇川地域**

上宇川

鞍内

遠下

井谷

畑

中野

井上

平

下宇川

上山

谷内

上野

久僧

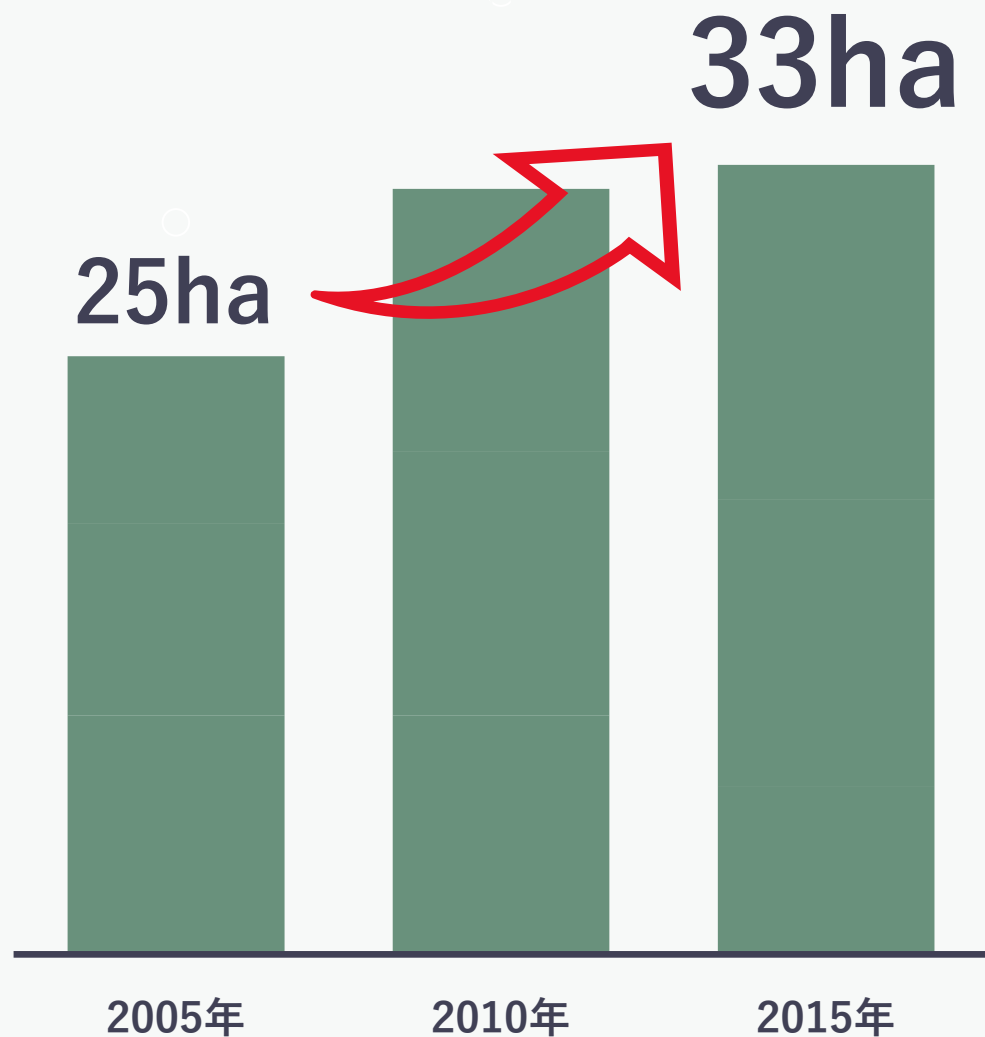
中浜

尾和

袖志

計14集落

宇川地域の耕作放棄地の推移



10年間で**8ha増加**
全国の増加率を**上回る**

ヒアリング概要

対象者

宇川住民、京丹後市職員など

人数

27人

調査方法

対面もしくはオンライン

実施期間

2024年2月~10月

目的

宇川地域における耕作放棄地の現状、発生原因、対策と見通しの把握

耕作放棄地の発生要因

資源・立地的要因

- ・水源の確保が難しい

人的要因

- ・人口減少、少子高齢化による農業従事者の減少
- ・農家の8～9割が耕作放棄地の発生を仕方ないと考えている
- ・リーダー的存在がない

経済的要因

- ・米の買取価格低下による農家の収入減少
- ・肥料や農薬、農機具の価格高騰

社会・制度的要因

- ・耕作放棄地状態の農地所有者のほとんどが宇川に住んでいない

政策的要因

- ・減反政策などの生産調整

その他の要因

- ・行政が実施する制度の理解が追いついていない
- ・獣害による農作物の被害



03

圃場整備と
農業法人化

圃場整備とは

区画整理

小さな農地を大きく成形された区画に再編成する

基盤整備

用排水路、土壌、道路などの営農環境を総合的に整備する

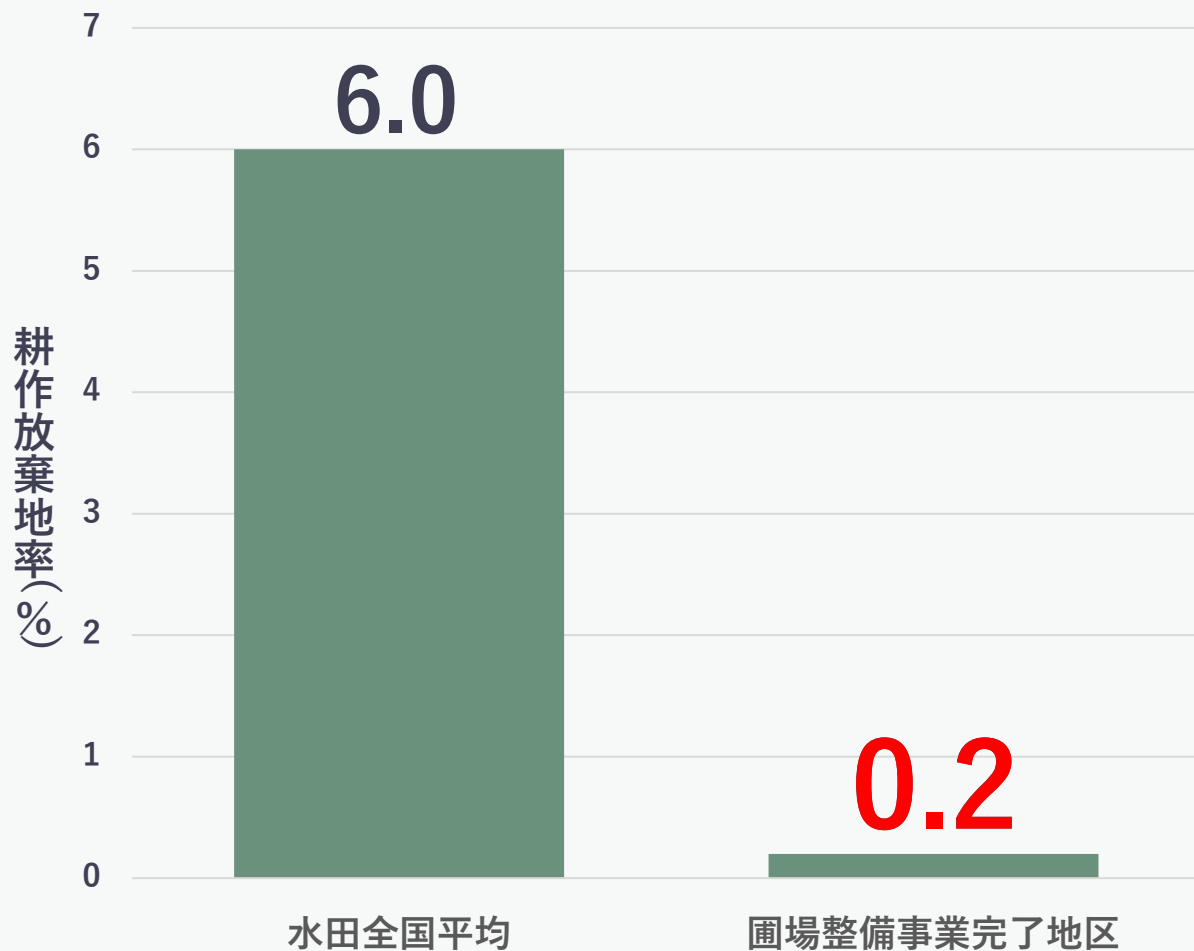
農業生産の効率化が図られる

圃場整備の効果

資源・立地的要因	・ 用排水施設が整備される事で水管理が省力化が図られる
人的要因	・ 大型機械の導入で稲作労働時間が半減し、農業者の負担が減る
経済的要因	・ 稲作の生産費が2/3に軽減される ・ 耕地面積の拡大により稲作の収量増加が図られる ・ 暗渠排水(あんきょはいすい)により湿田が解消することで、 転作作物の収量増加が図られる
社会・制度的要因	・ 土地の境界や権利関係が明確になる
政策的要因	—
その他の要因	・ 獣害を引き起こす動物の隠れ場所が減少する

圃場整備の効果の分析

基盤整備実施地区における耕作放棄地の発生状況



圃場整備事業完了後10年
経過した地区の耕作放棄地
の発生率は0.2%である



発生防止に効果がある

農業法人とは

圃場整備後の農地の担い手として法人を設立する事で、農地の集約化が促進され、計画的な土地利用が可能になる。

農業法人の効果

取引信用力の向上

助成金の確保

収益性の向上

新たな人材確保



- **継続的に**農地維持が
しやすくなる
- 耕作放棄地の**再発防止**
に効果的



耕作放棄地の解消・再発防止に効果的

04

宇川アグリ
の検証



宇川アグリの農地(今里ゼミ撮影)



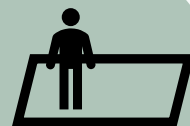
圃宇整備後グ農株式会社立

宇川アグリ株式会社の概要

設立年	2020年1月
人数	役員: 7人
設立背景	耕作放棄地が増加する中で、 農地を守るために 圃場整備を行うこととなり、 地元負担金をなくすための条件 として法人設立
作付種類	水稲(稲WCS、コシヒカリ、京の輝き)
作付面積	総面積: 21.8ha(以下内訳) 稲WCS: 13.2ha、コシヒカリ: 7.6ha、京の輝き: 1ha

宇川アグリの効果

農地集積による
耕作放棄地の解消



農地所有者の
維持・管理の削減

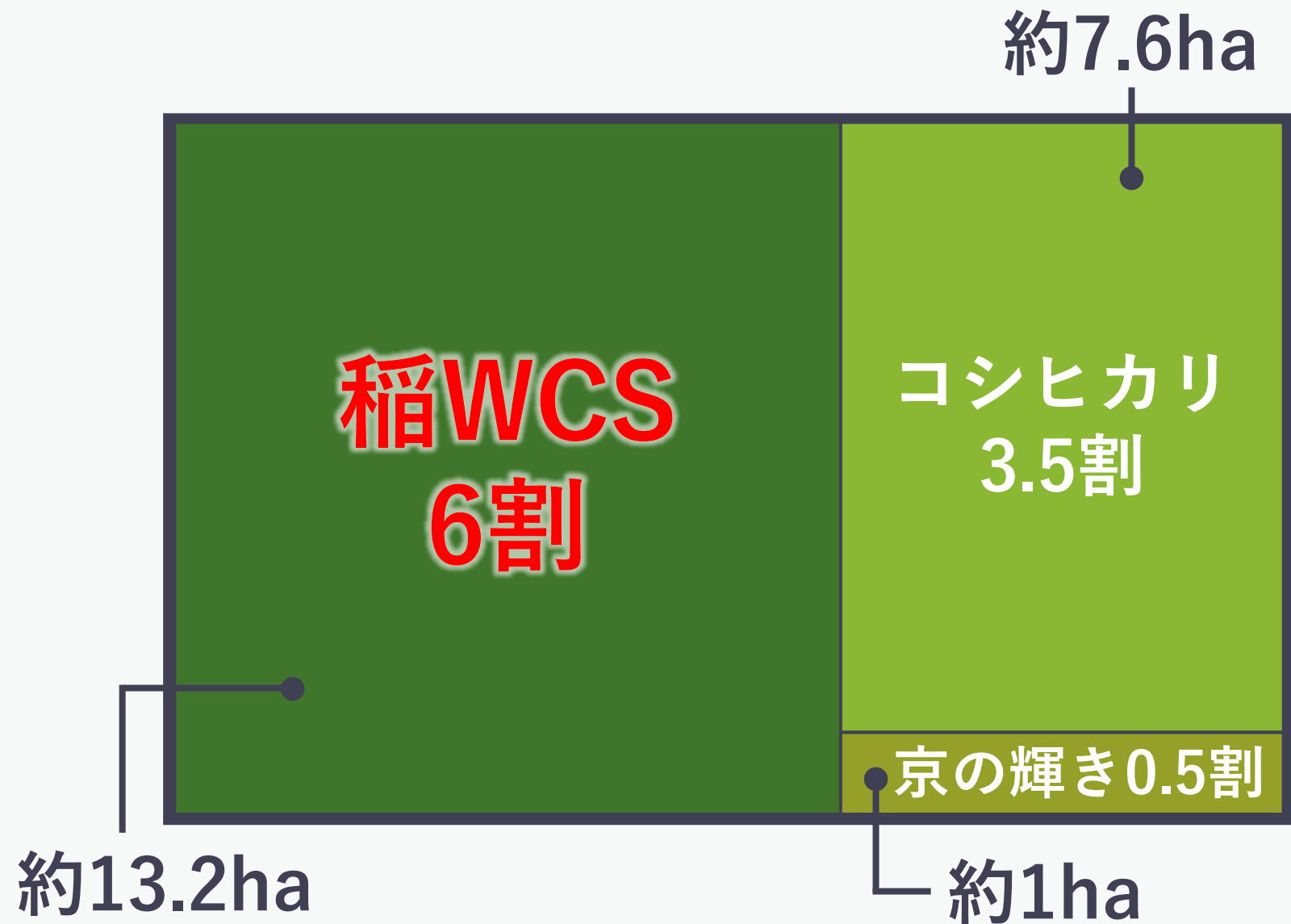
柵の設置などの
獣害対策



圃場整備事業の
地元負担金ゼロ

耕作放棄地の解消・発生抑制に貢献

宇川アグリ の農地経営



稲WCSのロール(今里ゼミ撮影)

稲WCS中心経営の実態

利点

- ・ 他の作物と比較して助成金の交付割合が高い
- ・ 収穫作業が不要

問題点

- ・ 助成金を得て黒字化
→ 十分な収益獲得 ×
- ・ 今後交付割合が減少
- ・ 牧場が買取削減の意向

収益不足の問題はさらに顕著に表れてくる

宇川アグリの経営課題

収入と支出がほぼ同じ

→雇用創出のための十分な金銭的余裕がない

農業法人の収益不足による弊害

農業法人の
収益不足

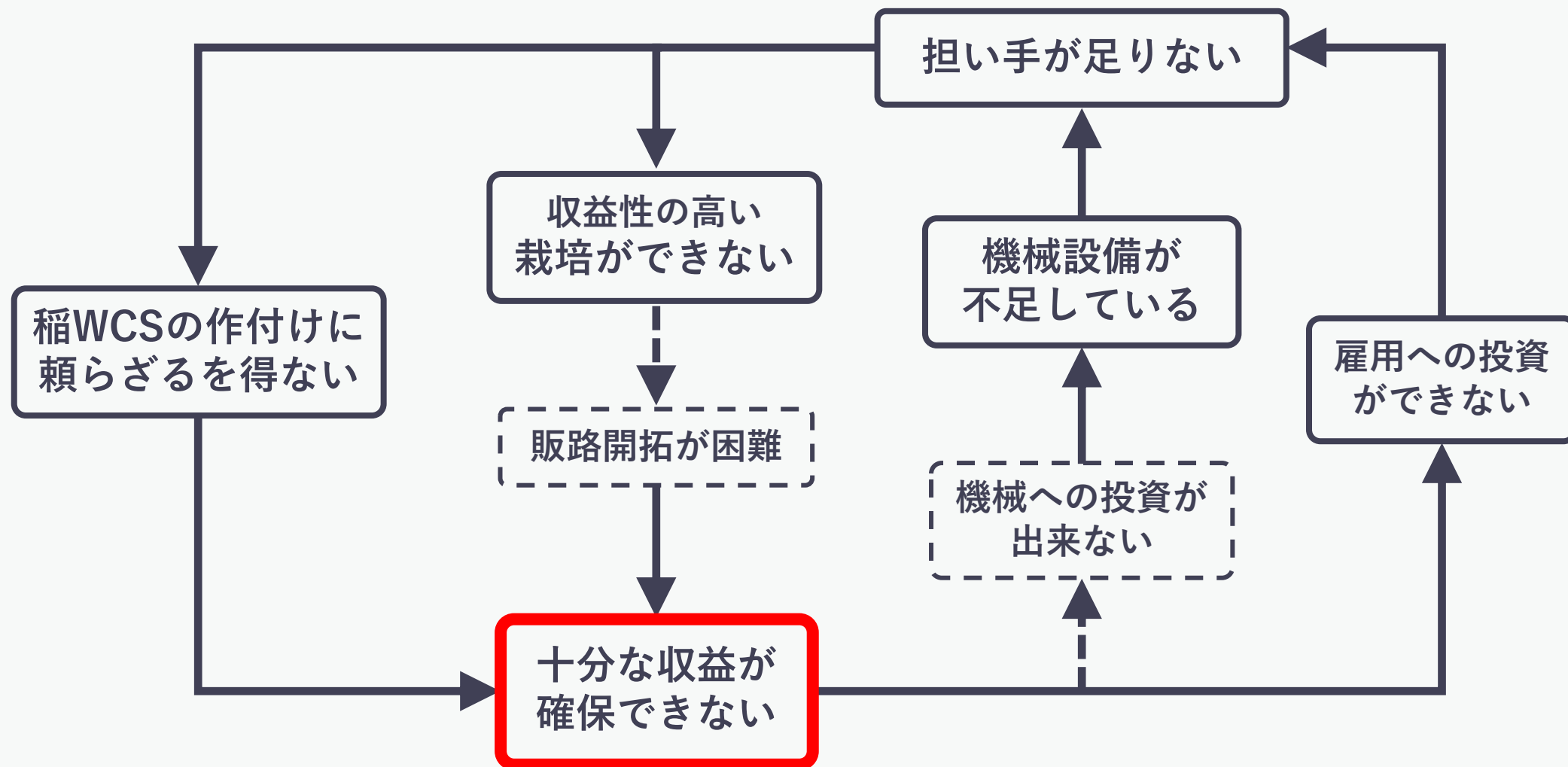
営農意欲の低下

後継者への
投資不足

農業法人の
経営難

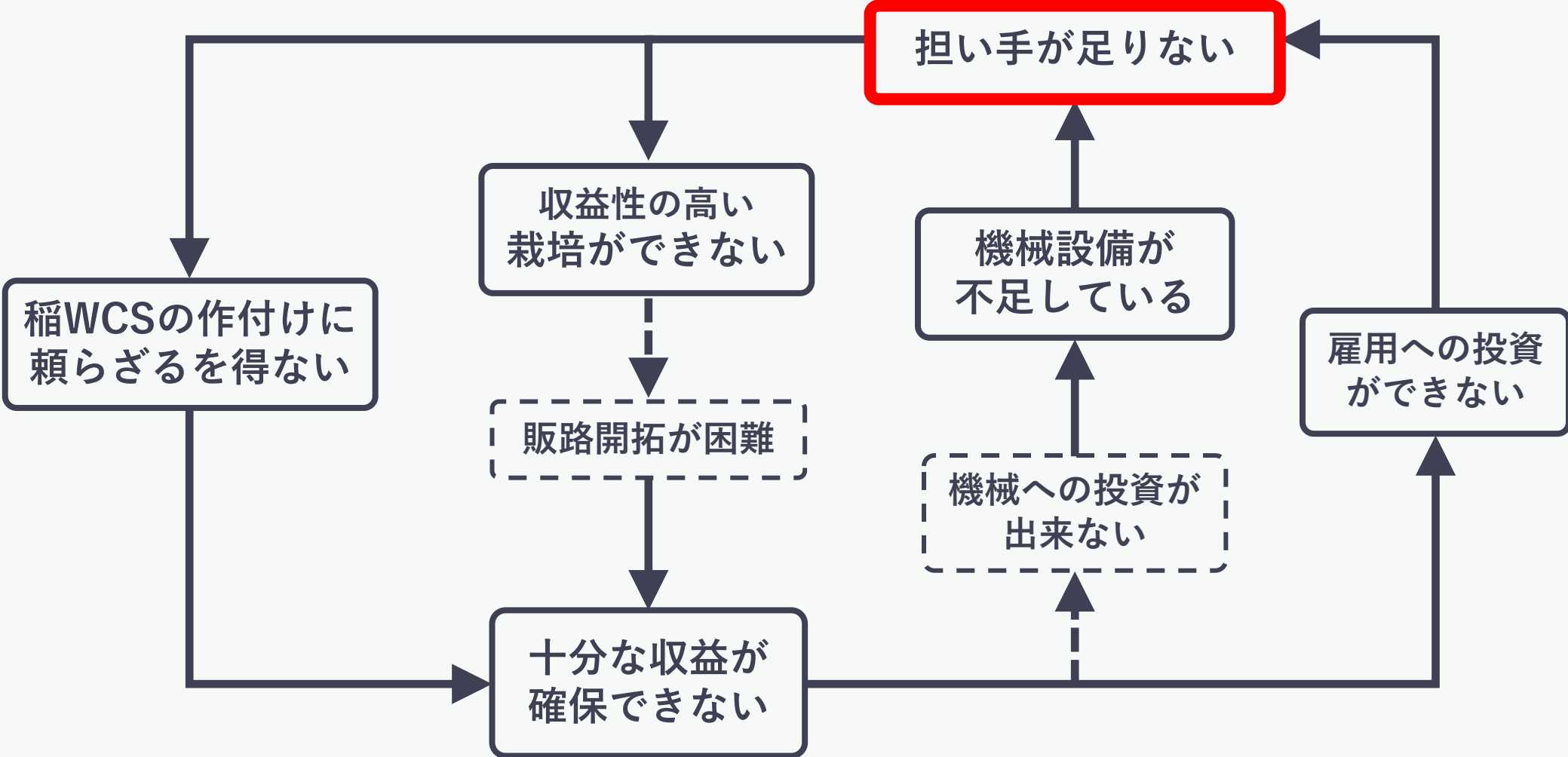
耕作放棄地の再発リスクを高める

課題の要因分析



収益不足は他の課題にも連鎖的に影響

課題の要因分析



宇川アグリ経営課題

- ・ 役員数は7人
 - ・ 最年少は57歳
 - ・ ほとんどが高齢者
- 後継者となりえる若者がいない



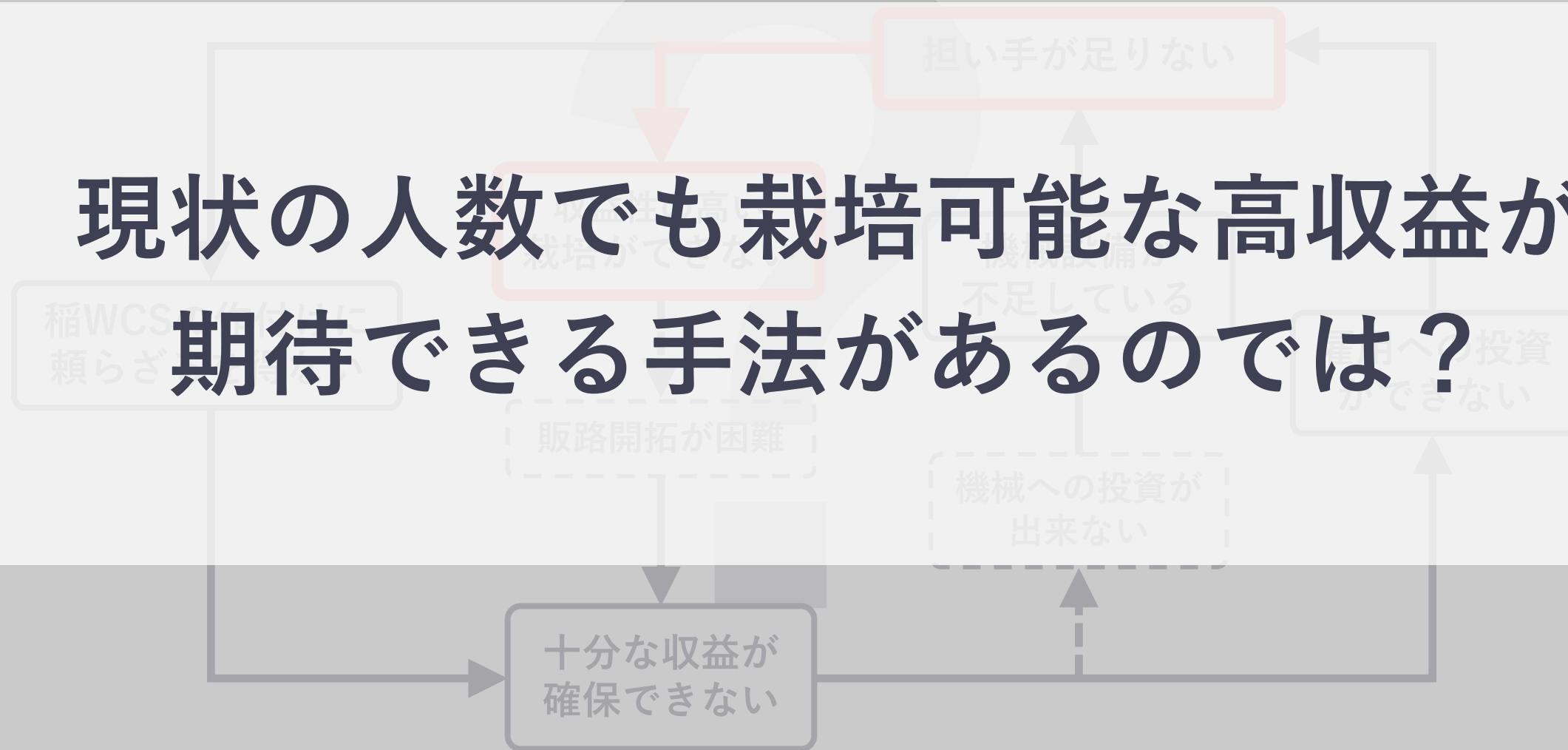
持続可能な農地利用と 経営計画の見直し



05 政策提案

課題の要因分析

現状の人数でも栽培可能な高収益が期待できる手法があるのでは？



調査概要

対象者

日本海側の中山間地域に位置する農業法人

法人数

33法人

調査方法

電話もしくはメールでの回答

実施期間

2024年10月

目的

宇川アグリに適した手法を検討するため

従業員が増加した法人の取り組む手法

高収益作物

有機栽培

多品目栽培

米のブランディング



宇川アグリ
の労働力で
収益を向上させられる
効果的な手法

高収益作物

他の作物に比べ、単価が高い。

有機栽培

生態系のバランスを崩さない。

多品目栽培

リスクが分散される。

米のブランディング

差別化を図ることが出来る。

収益を向上させるために

米 < 高収益作物

収益の向上
付加価値創出



- ・ 少ない栽培面積でも **高い収益**
- ・ 農業経営の **安定化** や **事業拡大**

宇川地域に適した高収益作物

単価が高い

労働時間が短い

加工に適している

宇川地域の気候に
適している



ぶどうの適正



出典：JAグループHP

- ・ **ぶどうは耐塩性、耐風性に優れている**
→ **宇川地域特有の海風に適している**
- ・ **糖分が凝縮された濃厚で風味豊かな**
ぶどうが育つことができる。

ぶどうの適正

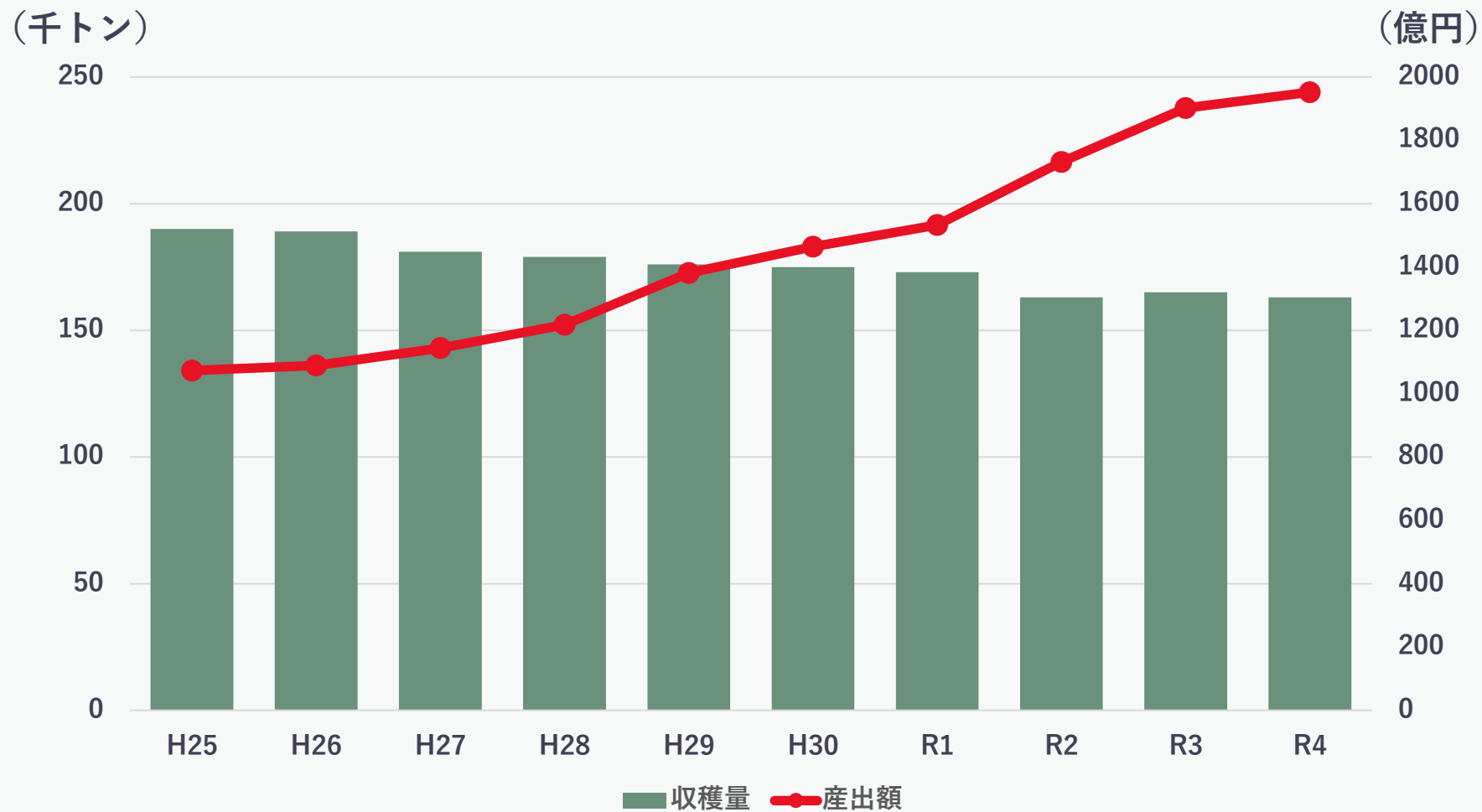
地域の特性を活かす

→気候条件に適している

独自性のある栽培が期待できる

出典：JAグループHP

ぶどうの生産量・産出額の推移



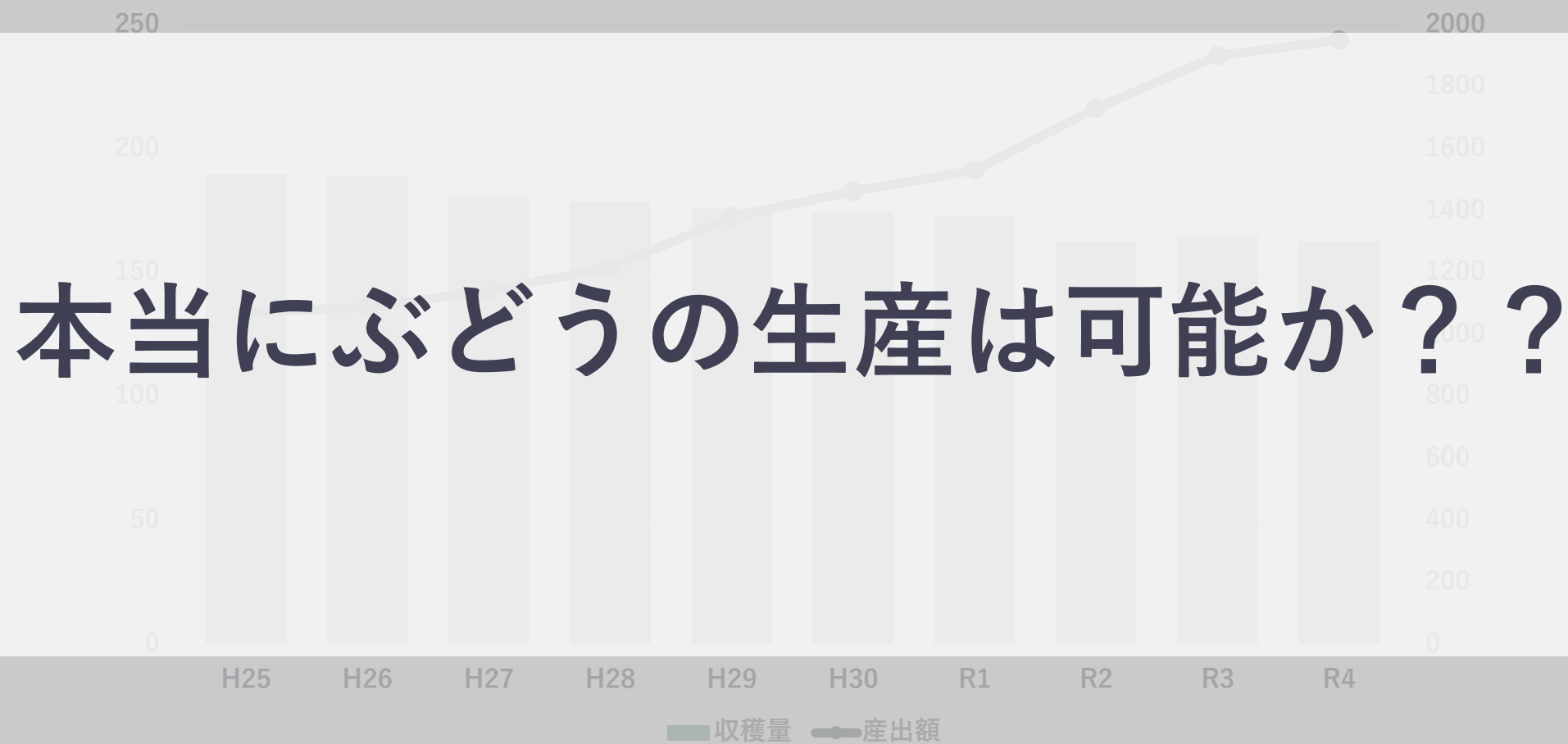
価格が**上昇傾向**にある

ぶどうの産出額の推移



価格が**上昇傾向**にある

ぶどうの産出額の推移



価格が**上昇傾向**にある



米とぶどうのハイブリッド経営



$$1700\text{万円} + 1200\text{万円} = \text{約}2900\text{万円}$$

ぶどう1haの売上見込

宇川アグリの上高

期待できる売上高

栽培スケジュール

↔ : 繁忙期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
稲WCS					↔							
コシヒカリ 京の輝き					↔				↔	↔		
ぶどう						↔	↔	↔				

ぶどうと稲作の繁忙期が被らない

栽培スケジュール

↔ : 繁忙期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
稲WCS					↔							
コシヒカリ 京の輝き				↔					↔			
ぶどう						↔	↔					

地域の方3名のを借り
繁忙期の労働力を確保

稲WCS中心の経営

米とブドウのハイブリッド経営

大幅な収益向上が期待できる

06

持続可能な
宇川地域に
向けて

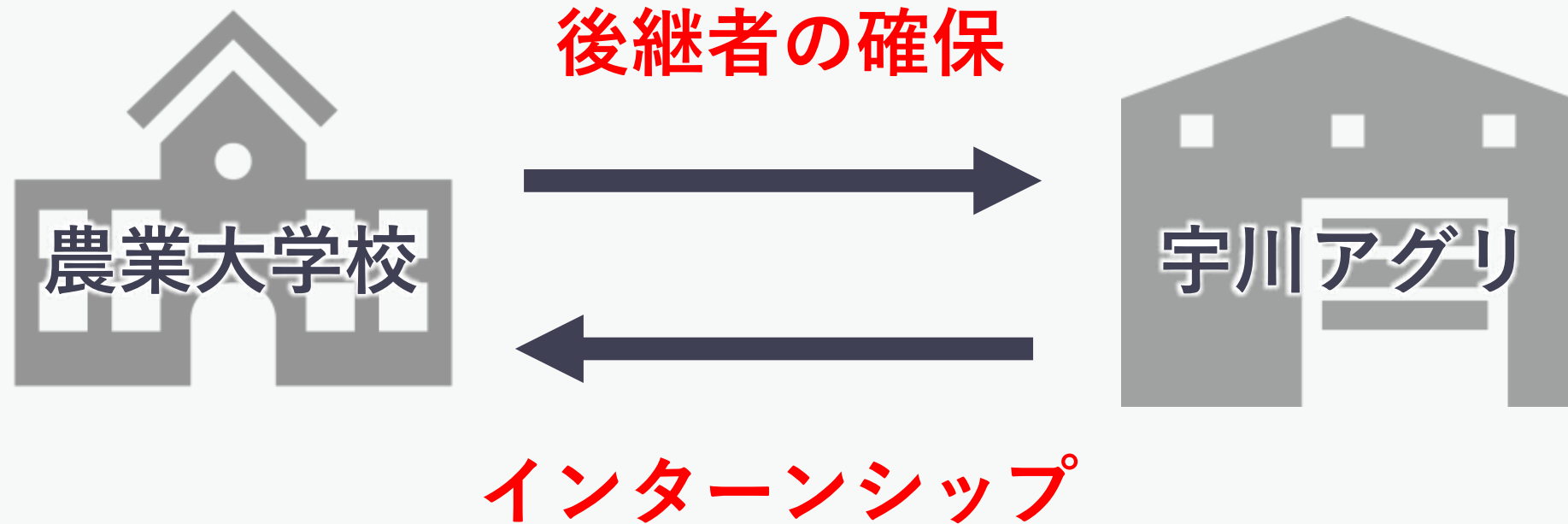


収益向上による効果

- 経営の安定化
- 農地の維持や拡大
- 後継者の確保や育成



後継者の確保や育成



後継者を確保し、担い手として育成
→ 宇川アグリの**持続可能性の実現**

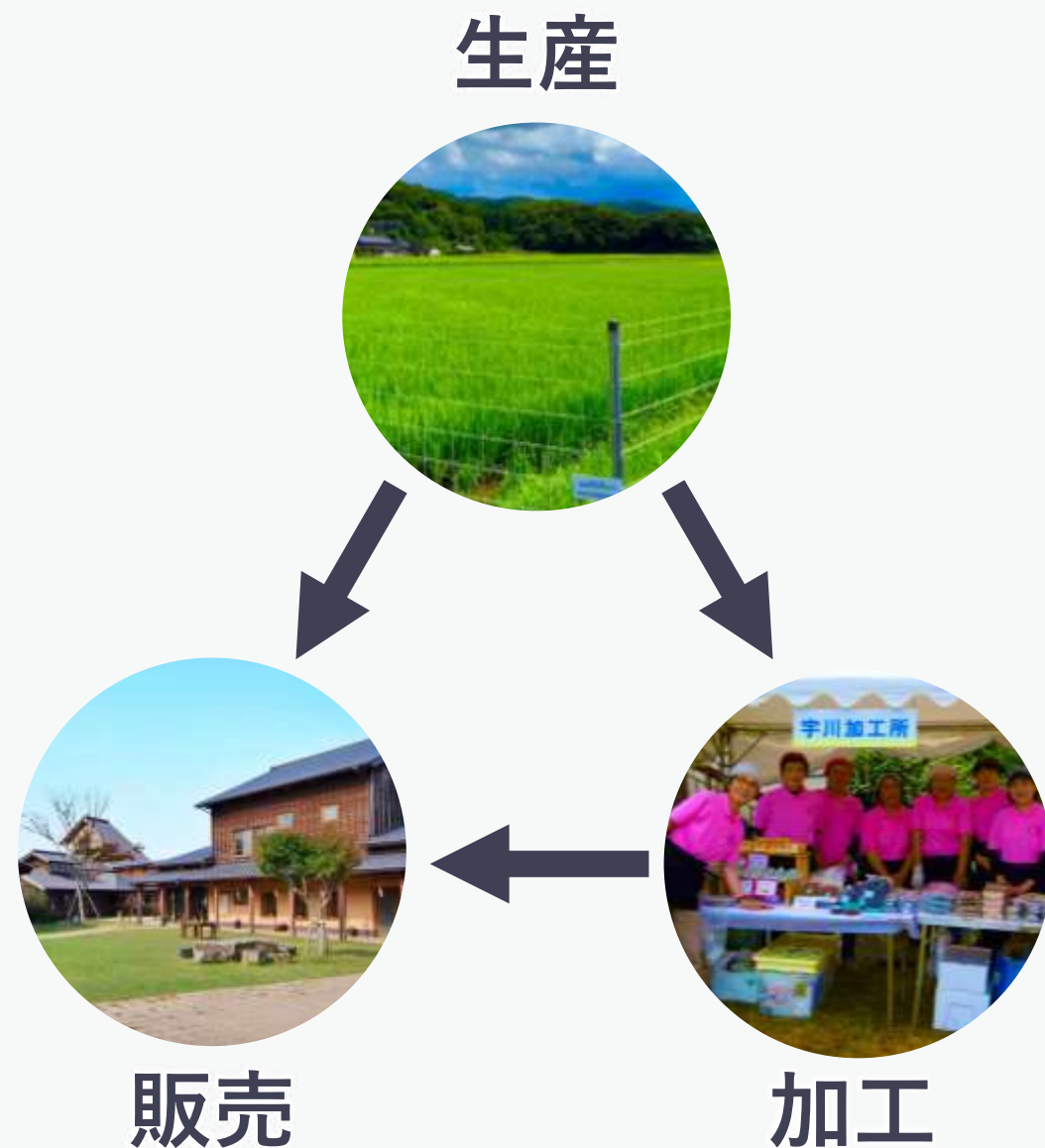
宇川地域への効果

トライアングルの形成

- ・ 宇川アグリによるぶどうの**生産**
- ・ 宇川加工所によるぶどうの**加工**
- ・ 宇川温泉の売店などによる商品の**販売**



経済的利益をもたらす



宇川地域への効果



地域活性化を担う
大きな力に変わる



地域コミュニティ
の結束が強化される

宇川地域への効果

間人



宇川地域



伊根町



宇川に立ち寄る観光客が少ない



宇川地域への効果

観光農園

- ・ 収穫体験
 - ぶどう商品の**購買意欲向上**
- ・ 参加者の収穫体験
 - 宇川アグリ**の労働力削減**
- ・ 宇川温泉と連携
 - **観光客の誘致が促進**

宇川地域への効果

観光農園

- ・収穫体験によりぶどう商品

観光による地域の発展

- ・参加者の収穫体験により
 - 労働力の削減
- ・宇川温泉と連携することで
 - 観光客の誘致が促進

宇川地域外への魅力発信

企業とのコラボ

伏見区でのマルシェ



都市と農山村を
つなげるイベント



企業とつなげる役割

市場拡大に貢献

関係人口
増加に寄与

持続可能な宇川地域

高収益作物の栽培をきっかけに地域全体で取り組みを進めることで宇川地域の**魅力向上**と**持続可能な地域づくり**を目指す。



今里米(今里ゼミ撮影)



おわりに

- 耕作放棄地の減少には、「圃場整備と農業法人」の効果を持続させるために「**農業法人の収益の向上**」が必要であることがわかりました。
- 宇川アグリの場合、「高収益作物の栽培」を採用しましたが、収益の向上だけでなく、**6次産業化**や**観光**にも発展することが期待できます。

おわりに

- ・ 農業法人の持続可能な経営は、耕作放棄地の解消だけでなく、地域の活性化にも効果をもたらし、**持続可能な地域づくり**につながると私たちは考えます。
- ・ 地域を巻き込んだ宇川アグリの農業経営が、全国の共通課題である耕作放棄地の解消に向けた**モデル**となり、全国に波及していくことを願います。

参考文献

- ・板垣啓四郎編著(2013).『我が国における食料自給率の向上への提言 [PART-3] 耕作放棄地の解消を考える』.筑波書房
- ・鵜川洋樹(2022).『飼料用米の生産と利用の経営行動:水田における飼料生産の展開条件』.農林統計出版
- ・枝廣淳子(2018).『地域経済を創りなおすー分析・診断・対策』.岩波新書
- ・小田切徳美(2014).『農山村は消滅しない』.岩波新書
- ・上宇川農業アンケート(2011)
- ・農業問題研究学会編(2008).『土地の所有と利用：地域営農と農地の所有・利用の現時点』.筑波書房
- ・野田公夫. 守山弘. 高橋佳孝. 九鬼康彰(2011).『シリーズ地域の再生⑰ 里山・遊休農地を生かす』.社団法人 農産漁村文化協会
- ・林美香子(2023).『《農都共生ライフ》がひとを変え、地域を変える 移住・CSA・ローカルベンチャー〈ウェルビーイングな暮らし〉の実践』.寿郎社
- ・増田寛也編著(2014).『地方消滅』.中公新書
- ・吉本宏雄(2015).『久僧村の記録誌』.久僧自治区

参考URL

- ・京丹後市 秘書広報広聴課.「市勢要覧2016 “わ”ごころ輝くまち 京丹後」.京丹後市HP.
<https://www.city.kyotango.lg.jp/material/files/group/3/shiseiyoran2016.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・京丹後市 秘書広報広聴課.「市勢要覧(平成17年発行)」.京丹後市HP.
<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/mayoroffice/hishokoho/6/2/2012.html>,(参照 2024-11-05).
- ・京都府.「上宇川地区」.京都府HP.
<https://www.pref.kyoto.jp/noson/news/press/2023/5/documents/10kamiukawa.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・京都府.「京都府農業振興地域整備基本方針」.京都府HP.
<https://www.pref.kyoto.jp/farmland/documents/kihonhoushin.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・クボタ.「農業人口などのデータ」.クボタHP
<https://www.kubota.co.jp/kubotatanbo/data/population.html>,(参照 2024-12-09)
- ・公益社団法人 日本農業法人協会.「農業法人とは?」.公益社団法人 日本農業法人協会.
https://hojin.or.jp/common/what_is-html/#2,(参照 2024-11-05).
- ・中嶋農園.「中嶋農園について」.中嶋農園HP.
<https://nakajima-nougyou.com/cms/about/>,(参照 2024-11-05).
- ・奈良県.「奈良県果樹農業振興計画書」.奈良県HP.
<https://www.pref.nara.jp/secure/122121/narakenkajusinnkoukeikaku.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・沼田行博(2021).「京都府からみた京丹後市農業の課題」.公共財団法人 日本農業研究所.
http://nohken.or.jp/NO.00chiikinohgyo/chiikinohgyo-No.2_numata.pdf,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省.「稲WCSを作りませんか?」.農林水産省HP.
<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/attach/pdf/chirashi-4.pdf>,(参照 2024-11-05).

参考URL

・農林水産省.「荒廃農地の現状と対策」.農林水産省HP.

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/tikei/houkiti/attach/pdf/index-27.pdf>,(参照 2024-12-09).

・農林水産省.「米の消費及び生産の近年の動向について」.農林水産省HP.

<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/240305/attach/pdf/240305-15.pdf>,(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「産地生産基盤パワーアップ事業関係情報」.農林水産省HP.

https://www.maff.go.jp/j/seisan/suisin/tuyoi_nougyou/sanchipu.html,(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「集落営農と法人化」.農林水産省HP.

[nougyoukeiei_jousei_r6apr_7.pdf](https://www.maff.go.jp/j/seisan/suisin/tuyoi_nougyou/sanchipu.html),(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「水田農業の高収益化の推進」.農林水産省HP.

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/suiden_kosyueki.html,(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「全国耕作放棄地面積の推移について」.農林水産省HP.

https://www.maff.go.jp/j/budget/yosan_kansi/sikkou/tokutei_keihi/seika_R2/ippan/attach/pdf/R2_ippan-14.pdf,(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「地域計画策定マニュアル」.農林水産省HP.

<https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/manual5.0.pdf>,(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「土地改良事業計画設計基準 計画「ほ場整備(水田)」.農林水産省HP

https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/tyotei/kizyun/attach/pdf/hojouseibi_suiden-2.pdf,(参照 2024-11-05).

・農林水産省.「農業競争力強化基盤整備事業のうち 農業競争力強化農地整備事業<公共>」.農林水産省HP.

https://www.maff.go.jp/j/nousin/soumu/yosan/R5_zentai/attach/pdf/R5_zentai-62.pdf,(参照 2024-11-05).

参考URL

- ・農林水産省. 「農村型地域運営組織(農村RMO)の推進～地域で支え合うむらづくり～」. 農林水産省HP.
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/nrmo/index.html>,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省. 「農林業センサス(2005,2010,2015,2020)」. 農林水産省HP.
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省. 「農林業センサス等に用いる用語の解説」. 農林水産省HP.
<https://www.maff.go.jp/j/study/census/2015/1/pdf/sankou5.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省. 「ほ場整備の効果と農家の負担について」. 農林水産省HP.
https://www.maff.go.jp/j/study/kome_sys/11/pdf/data2.pdf,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省. 「【用語等の解説】」. 農林水産省HP.
<https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/database/attach/pdf/index-2.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省. 「令和5年産米生産費(個別経営体)」. 農林水産省HP.
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noukei/seisanhi_nousan/pdf/seisanhi_kome_23.pdf,(参照 2024-11-05).
- ・農林水産省. 「令和5年産米の相対取引価格・数量について(令和5年9月)」. 農林水産省HP.
<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/kikaku/attach/pdf/231017-2.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・兵庫県. 「今こそ始めようほ場整備を!」. 兵庫県HP.
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/org/sumototochikairyo/documents/awajiban-hojoseibi-panhuretto.pdf>,(参照 2024-11-05).
- ・吉村亜希子. 石田憲治郎. 渡嘉敷勝(2001). 「中山間地における水田の耕作放棄が流出に及ぼす影響」. 農村計画学会誌.
https://www.jstage.ist.go.jp/article/arp1982/20/20-suppl/20_20-suppl_139/_pdf/-char/ja,(参照 2024-11-05).



ご清聴ありがとうございました